

## はじめに

これまでのマタイの福音書の学びでは、おもにふたつの要点について学びました。

1.マタイ 5章 1-12 節で、イエスは神の御国に入るといふ大きな祝福について人々に教えておられます。

この祝福には、神の御国に入れていただく、悲しみが慰められる、神のきよさに満たされる、神のあわれみを受ける、などたくさんの方が含まれます。

ここで、これらの祝福はすでに神の御国の者とされた信徒たちに約束されているということを確認しておく必要があります。

これらの祝福は、神の御国に入るための条件ではありません。

多くの現代人は、あらゆる規律を守って良い人間になれば、死んだときに天国に入れると考えます。けれども、それはイエスの教えではありません。

私たちが天国に入れるのはすべて、イエスを信じる信仰による神の恵みのおかげです。これは、多くの方がつまづく部分です。

2.マタイ 5章 13-16 節では、神の御国における弟子となることの重要性が教えられています。

私たちはイエス・キリストの使節です。私たちは、福音の光を輝かせ、きよく生きることを望みます。

イエスは、光と塩を使ったたとえを教えてくださいました。

当時の人々は、このふたつの意味をはっきりと理解したことでしょう。

現代人の私たちも、光が闇をかき消すことはわかります。

私たちがイエスの福音を誰かに伝えるなら、それによって、神の聖霊がその人の心の闇を照らすのを可能にします。

一方、塩のたとえは私たちにとって理解しにくいかもしれません。

イエスがこの言葉を語られた時代、塩はとても貴重でした。

食料の保存や味付けの役割を果たしました。

けれども、塩に他のミネラルが混入すると、それは使えなくなります。イエスは、地面に捨てたほうがよいとおっしゃいました。

イエスがここで人々に伝えようとしておられたのは、神のみことばにしたがってきよく生きる必要があるということです。

そうすることによって、世間の人々は彼らの生き方に違いを見出すのです。

英国ウェールズ出身の有名な説教者ロイドジョーンズは言いました。

「福音の栄光とは、教会がこの世とまったく異なるとき、教会が常に世を魅了することである。そうすれば、この世が教会の語るメッセージを最初は毛嫌いしても、耳を傾けざるを得なくなる。」

これは非常に重要です。そして、今年のリトリートで「聖化」について教えるよう聖霊に示されたかと私が考えているおもな理由のひとつでもあります。

では、旧約聖書の律法とイエスの救いの教えの関係についてイエス・キリストが説明しておられる個所に進みます。

まず注目すべきことは、18-44 節でイエスが同じフレーズを 9 回使われていることです。聖書でイエスが同じことを繰り返されるのはいつも、その重要性を強調するためです。

原語のギリシャ語訳では、これは同じ単語ですが、英語の訳では、違う表現のように訳されているものもあります。

新改訳では、「まことに、あなたがたに告げます…」となっています。

このフレーズは、イエスの権威をあわらしています。

今日、イエスが権威をもって教えられることが 3 つあります。

### **1.イエスは、旧約聖書に関する考えを改めることを望まれる。(17-18 節)**

「律法や預言者」という言い回しは、旧約聖書全体を指すユダヤ人の表現です。

パリサイ人や律法学者の考えが間違っていることは明らかでした。イエスは、彼らに考え方を改めるよう望まれました。

ユダヤ人の指導者たちは、イエスが旧約聖書の預言書や聖書の最初の 5 つの書、モーセ五書に従っていないと考えていました。

イエスは、ご自身が来られたのは預言を成就し、律法の教えをまっとうすることだと、ユダヤ人指導者たちにおっしゃいます。

イエスはご自身の教えに固く立ち、天と地が滅ぶまで、イエスの教えによって旧約聖書のほんのわずかな一部でもすたれないと約束なさいました。

実際に、旧約聖書の教えはすべてイエスに関わる内容、もしくは、何らかのかたちでイエスと救いを指し示すものです。

もし皆さんも旧約聖書に対する考えを改めたいと思うなら、イエス・キリストと救いを視野に入れて旧約聖書を学ぶ必要があります。

ある英語のスタディバイブルでは、旧約聖書のほぼすべての個所に、イエスの救いに関わる注釈があります。

イエスは、旧約聖書に敵対していない、旧約聖書を成就するためだとおっしゃいました。

### **2.イエスは、罪と救いに関する考えを改めることを望まれる。(19-20 節)**

まず、罪と救いについて当時のパリサイ人や律法学者がどう考えていたのかを知る必要があります。

多くの現代人も同じように考えているからです。

イエスは、ユダヤ人指導者や律法学者に対して、自分たちの正しさでは神の御国に入るには不十分だとおっしゃいます。

律法学者やパリサイ人は、旧約聖書の律法を基準に自分たちは正しいと考えていましたが、彼らは他にも多くの律法を付けたし、イエスの来臨に関するメッセージをわからなくしてしまっていました。

彼らは、「律法主義」と呼ばれる者になってしまっていました。

これは、人が作った規則や聖書の規則を自分たちの解釈ですべて守れば、天国に行けるという教えです。

イエスは、彼らが間違っているとはっきり言われます。

神の律法や人が作った規則に従おうとする努力よりはるかに良い義を私たちは受け取ることができます。

しかしこの発言は、ユダヤ人の律法学者やパリサイ人をひどく怒らせました。

多くの現代人もまったく同じように考えています。

ひとつ例を挙げてお話ししましょう。

坂の上にあるカトリック教会に行って、司祭や教会の責任者に、カトリック教会の教えでは人々は天国に行けませんと言えば、きっと怒られるでしょう。

彼らは、同じ聖書を使っていると言うでしょう。

けれども、その解釈が誤っているうえ、聖書に載っていない規則やきまりを付け加えているのです。

ですから、私たちは考えなければなりません。旧約聖書の教えや人が作った規則を超えるより良い義とはなんでしょう。

その答えは簡単です。主イエス・キリストの真の福音です。

イエスは天の栄光を離れて、律法を成就するためにこの地上に来てくださいました。

イエスは「ご自身の義」を私たちに与えるために来てくださいました。イエスの義なしに、私たちが罪の赦しやきよめを得て天国に入れることは決してないからです。

### **コリント第二 5 : 21**

5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

### **エペソ 2 : 1-10**

2:1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、

2:2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。

2:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、

2:5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——

2:6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。

2:7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかにお示しになるためでした。

2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

2:9 行いによるものではありません。だれも誇るものがないためです。

2:10 私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。

福音は律法主義を打ち砕きます。私たちは自力で天国に行く道を切り開くことはできません。これはただ、神の恵みと愛とあわれみによるのです。

今日私たちが問うべきことは、これです。私たちは、イエス・キリストを信じていますか。そして、イエスが 2000 年前に十字架上で死なれたことによりなしてくださった御業を信じていますか。

つまり、神の愛とあわれみをもう受け取りましたか、ということです。

自分の考えを改め、救いや永遠のいのちについてイエスが教えてくださることを信じようと思いませんか。

今日からそうすることができます。祈りましょう。